

2022年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年11月9日

上場会社名 宝ホールディングス株式会社
 コード番号 2531 URL <https://www.takara.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木村 睦
 問合せ先責任者 (役職名) 財務・IR部長 (氏名) 宇佐美 昌和
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

上場取引所 東
 TEL 075-241-5124

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	141,213		21,616	273.8	21,884	268.4	10,050	263.9
2021年3月期第2四半期	127,784	7.1	5,782	24.1	5,940	24.5	2,761	36.9

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 21,056百万円 (765.4%) 2021年3月期第2四半期 2,433百万円 (12.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	50.84	
2021年3月期第2四半期	13.97	

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る売上高につきましては、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。対前年同四半期増減率は記載しておりません。なお、その他の連結経営成績につきましては、「収益認識に関する会計基準」等を適用することによる影響はありません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	328,097	205,795	50.7
2021年3月期	306,918	191,535	51.1

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 166,385百万円 2021年3月期 156,884百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期				21.00	21.00
2022年3月期					
2022年3月期(予想)				29.00	29.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2022年3月期における1株当たりの配当予想については、24円から29円に修正しております。詳細については本日(2021年11月9日)公表いたしました「2022年3月期の連結業績予想ならびに配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	289,000		33,400	54.7	33,800	54.1	16,100	52.3
								81.43

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。売上高につきましては対前期増減率は記載しておりません。なお、その他の連結業績予想につきましては、「収益認識に関する会計基準」等を適用することによる影響はありません。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(注)詳細は、添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期2Q	199,699,743 株	2021年3月期	199,699,743 株
期末自己株式数	2022年3月期2Q	1,995,490 株	2021年3月期	1,995,468 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期2Q	197,704,258 株	2021年3月期2Q	197,704,590 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(第2 四半期決算説明会内容の入手方法)

当社は2021年11月11日に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、説明会終了後遅滞なく当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(会計方針の変更)	11
(セグメント情報)	11
(収益認識関係)	12
(重要な後発事象)	13

○ 第2四半期決算短信補足資料

1. 当四半期決算に関する定性的情報

収益認識に関する会計基準等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、前第2四半期連結累計期間の売上高と異なる基準で計上されており、影響の大きい連結及び宝酒造セグメントの売上高、売上総利益および販売費及び一般管理費については前年同期比を記載せず説明しております。なお、営業利益以下に与える影響はありません。収益認識に関する会計基準等適用による影響につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 会計方針の変更」に記載しております。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績は、宝酒造インターナショナルグループとタカラバイオグループの好調に牽引され、売上高141,213百万円、売上総利益54,340百万円、販売費及び一般管理費32,724百万円、営業利益21,616百万円（前年同期比273.8%増）、経常利益21,884百万円（同268.4%増）となり、収益認識に関する会計基準等の影響を吸収し増収、増益となりました。また、製品自主回収関連損失1,567百万円を特別損失に計上いたしました。親会社株主に帰属する四半期純利益も10,050百万円（同263.9%増）と増益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

[宝酒造]

当第2四半期連結累計期間の売上高は、収益認識に関する会計基準等の適用による影響を除いた比較でも、原料用アルコール等や清酒が減少いたしました。また、ソフトアルコール飲料につきましても、製品自主回収が影響し減少いたしました。

以上の結果、宝酒造の売上高は、収益認識に関する会計基準等適用の影響△13,915百万円を含め、57,633百万円となりました。売上原価は、43,341百万円となり、売上総利益は、14,291百万円となりました。販売費及び一般管理費は、同じく収益認識に関する会計基準等適用の影響△13,915百万円に加え経費削減に努めたため、12,020百万円となり、営業利益は、2,270百万円（前年同期比39.6%増）となりました。

[宝酒造インターナショナルグループ]

当第2四半期連結累計期間の売上高は、英国、米国でウイスキーが引き続き増加したこと、前期コロナ禍の影響を受け減少した清酒の売上が増加したことなどにより、海外酒類事業の売上高は7,005百万円（前年同期比53.1%増）となりました。海外日本食材卸事業では、海外の飲食店市場においてコロナ禍からの回復が進んだことなどにより40,410百万円（同49.1%増）となりました。

以上の結果、宝酒造インターナショナルグループの売上高は、46,734百万円（同49.4%増）となりました。売上原価は、31,747百万円（同43.4%増）となり、売上総利益は、14,987百万円（同63.9%増）となりました。販売費及び一般管理費は、人件費および運送費等が増加し、10,682百万円（同12.0%増）となり、営業利益は、4,304百万円（前年同期は396百万円の営業損失）となりました。

[タカラバイオグループ]

当第2四半期連結累計期間の売上高は、遺伝子医療が前年同期比で減少したものの、試薬、機器および受託が前年同期比で増加いたしました。特に、試薬は、新型コロナウイルスのPCR検査関連製品に加え、回復基調にある一般研究用試薬が増加いたしました。

以上の結果、タカラバイオグループの売上高は、31,551百万円（前年同期比81.4%増）となりました。売上原価は、受託事業の原価率改善などにともない8,056百万円（同44.7%増）となり、売上総利益は、23,495百万円（同98.6%増）となりました。販売費及び一般管理費は、人件費および研究開発費等が増加し、9,389百万円（同16.1%増）となり、営業利益は、14,105百万円（同277.5%増）となりました。

[その他]

当第2四半期連結累計期間の売上高は、14,624百万円（前年同期比3.1%増）となりました。売上原価は、12,684百万円（同2.4%増）となり、売上総利益は、1,940百万円（同7.9%増）となりました。販売費及び一般管理費は、人件費などが減少し、910百万円（同4.1%減）となり、営業利益は1,029百万円（同21.4%増）となりました。

品種別販売実績

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	対前年 増減率
品種	金額(百万円)	金額(百万円)	(%)
宝酒造			
焼酎	24,284	19,315	△20.5
清酒	6,792	4,718	△30.5
ソフトアルコール飲料	24,024	18,808	△21.7
その他酒類	2,684	2,529	△5.8
本みりん	6,288	4,258	△32.3
その他調味料	4,976	4,079	△18.0
原料用アルコール等	5,114	3,922	△23.3
計	74,164	57,633	△22.3
宝酒造インターナショナルグループ			
海外酒類	4,574	7,005	53.1
海外日本食材卸	27,099	40,410	49.1
その他	35	29	△16.9
グループ内連結消去	△424	△710	—
計	31,286	46,734	49.4
タカラバイオグループ			
試薬	13,336	25,966	94.7
機器	466	712	52.6
受託	3,373	4,732	40.3
遺伝子医療	215	140	△35.0
計	17,393	31,551	81.4
報告セグメント計	122,844	135,919	10.6
その他	14,186	14,624	3.1
セグメント計	137,030	150,544	9.9
事業セグメントに配分していない 収益およびセグメント間取引消去	△9,246	△9,331	—
合計	127,784	141,213	10.5

(注) 1. 販売金額には酒税を含んでおります。

2. 第1四半期連結会計期間よりタカラバイオグループの品種名称を「研究用試薬」、「理化学機器」、「受託サービス」から「試薬」、「機器」、「受託」にそれぞれ変更しております。

(参考) 【収益認識基準適用前】 品種別販売実績

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	対前年 増減率
品種	金額 (百万円)	金額 (百万円)	(%)
宝酒造			
焼酎	24,284	24,173	△0.5
清酒	6,792	6,066	△10.7
ソフトアルコール飲料	24,024	23,115	△3.8
その他酒類	2,684	2,828	5.4
本みりん	6,288	6,344	0.9
その他調味料	4,976	5,093	2.4
原料用アルコール等	5,114	3,928	△23.2
計	74,164	71,549	△3.5
宝酒造インターナショナルグループ			
海外酒類	4,574	7,019	53.4
海外日本食材卸	27,099	40,410	49.1
その他	35	29	△16.9
グループ内連結消去	△424	△710	—
計	31,286	46,748	49.4
タカラバイオグループ			
試薬	13,336	25,966	94.7
機器	466	712	52.6
受託	3,373	4,732	40.3
遺伝子医療	215	140	△35.0
計	17,393	31,551	81.4
報告セグメント計	122,844	149,849	22.0
その他	14,186	14,624	3.1
セグメント計	137,030	164,474	20.0
事業セグメントに配分していない 収益およびセグメント間取引消去	△9,246	△9,331	—
合計	127,784	155,143	21.4

(注) 比較の便宜のため、当第2四半期連結累計期間の売上高は収益認識に関する会計基準等を適用しなかった場合の金額を記載しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は197,879百万円となり、前連結会計年度末に比べ14,771百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が5,012百万円、棚卸資産が4,147百万円、受取手形及び売掛金が3,744百万円増加したことによるものであります。固定資産は130,218百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,408百万円増加いたしました。これは主にTakara Bio USA, Inc.の新事業所用建物の内装工事およびタカラバイオ株式会社の製造設備取得等により有形固定資産が5,487百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、328,097百万円となり、前連結会計年度末に比べ21,179百万円増加いたしました。

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は73,636百万円となり、前連結会計年度末に比べ17,367百万円増加いたしました。これは主に流動負債のその他が収益認識に関する会計基準等適用に伴う返金負債5,690百万円などにより8,890百万円増加し、1年内償還予定の社債が10,000百万円増加したことによるものであります。固定負債は社債の流動負債への振替などにより前連結会計年度末に比べ10,447百万円減少し、48,665百万円となりました。

この結果、負債合計は、122,302百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,919百万円増加いたしました。

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は205,795百万円となり、前連結会計年度末に比べ14,260百万円増加いたしました。これは主に円安の影響により為替換算調整勘定が4,974百万円増加し、タカラバイオグループの好業績により非支配株主持分が4,759百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は50.7%（前連結会計年度末は51.1%）となりました。

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益20,400百万円、減価償却費4,061百万円、売上債権の増加2,850百万円、棚卸資産の増加2,472百万円、法人税等の支払額6,365百万円などにより、11,798百万円の収入と、前年同期に比べ5,716百万円の収入増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入による支出10,757百万円、定期預金の払戻による収入2,119百万円、有形及び無形固定資産の取得による支出6,827百万円、補助金の受取額3,349百万円などにより、12,066百万円の支出と、前年同期に比べ8,963百万円の支出増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払額4,144百万円などにより、5,620百万円の支出（前年同期は1,202百万円の収入）となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物に係る換算差額を含めた当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末より4,085百万円減少し、58,775百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、最近の業績の動向等を踏まえ、2021年8月3日に公表いたしました業績予想を修正しております。

通期の売上高につきましては、前回予想（2021年8月3日発表）に対して、宝酒造が減収となるものの、宝酒造インターナショナルグループとタカラバイオグループが増収となるため、グループ全体では増収となり、過去最高となる見通しです。

利益面では、売上高の増加や売上原価率の低下による売上総利益の増加により、販売費及び一般管理費は増加するものの、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、前回予想を上回り、過去最高となる見通しです。

業績予想の修正に関する詳細は、本日（2021年11月9日）公表いたしました「2022年3月期の連結業績予想ならびに配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご参照ください。また、各事業セグメントの予想値の詳細につきましては、「決算短信補足資料」（PAGE 13/21～16/21）をご参照ください。

(通期連結業績予想)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A) (2021年8月3日発表)	百万円 275,000	百万円 28,600	百万円 29,000	百万円 13,400	円 銭 67.78
今回修正予想 (B)	289,000	33,400	33,800	16,100	81.43
増減額 (B - A)	14,000	4,800	4,800	2,700	—
増減率 (%)	5.1	16.8	16.6	20.1	—
ご参考：前期実績 (2021年3月期)	278,443	21,595	21,929	10,574	53.48

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	66,238	71,250
受取手形及び売掛金	61,954	65,699
有価証券	1,145	980
商品及び製品	41,115	44,268
仕掛品	1,924	2,318
原材料及び貯蔵品	6,084	6,685
その他	5,161	7,154
貸倒引当金	△516	△478
流動資産合計	183,108	197,879
固定資産		
有形固定資産	74,740	80,228
無形固定資産		
のれん	10,142	10,299
その他	5,746	5,645
無形固定資産合計	15,889	15,945
投資その他の資産		
投資有価証券	27,924	28,425
その他	5,324	5,683
貸倒引当金	△69	△64
投資その他の資産合計	33,180	34,045
固定資産合計	123,810	130,218
資産合計	306,918	328,097
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,481	17,919
短期借入金	5,166	5,035
1年内償還予定の社債	—	10,000
未払酒税	6,890	6,440
未払費用	6,455	4,275
未払法人税等	4,021	4,971
引当金	4,914	3,762
その他	12,340	21,231
流動負債合計	56,269	73,636
固定負債		
社債	20,000	10,000
長期借入金	15,465	15,262
リース債務	3,122	3,216
退職給付に係る負債	9,274	9,256
長期預り金	5,136	5,091
その他	6,114	5,840
固定負債合計	59,113	48,665
負債合計	115,383	122,302

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,226	13,226
資本剰余金	2,292	2,348
利益剰余金	135,184	139,215
自己株式	△1,682	△1,682
株主資本合計	149,020	153,107
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,370	11,726
繰延ヘッジ損益	193	203
為替換算調整勘定	△2,840	2,133
退職給付に係る調整累計額	△859	△786
その他の包括利益累計額合計	7,863	13,277
非支配株主持分	34,650	39,410
純資産合計	191,535	205,795
負債純資産合計	306,918	328,097

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	127,784	141,213
売上原価	76,361	86,872
売上総利益	51,422	54,340
販売費及び一般管理費	45,639	32,724
営業利益	5,782	21,616
営業外収益		
受取配当金	283	311
その他	348	357
営業外収益合計	632	669
営業外費用		
支払利息	176	160
その他	298	239
営業外費用合計	474	400
経常利益	5,940	21,884
特別利益		
国庫補助金	—	1,188
その他	3	180
特別利益合計	3	1,368
特別損失		
固定資産圧縮損	—	1,188
製品自主回収関連損失	—	1,567
事業整理損	464	—
その他	152	97
特別損失合計	617	2,853
税金等調整前四半期純利益	5,326	20,400
法人税、住民税及び事業税	2,087	6,396
法人税等調整額	△189	△354
法人税等合計	1,898	6,041
四半期純利益	3,428	14,358
非支配株主に帰属する四半期純利益	666	4,308
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,761	10,050

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	3,428	14,358
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,345	355
繰延ヘッジ損益	△40	10
為替換算調整勘定	△2,316	6,249
退職給付に係る調整額	16	81
その他の包括利益合計	△995	6,697
四半期包括利益	2,433	21,056
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,248	15,464
非支配株主に係る四半期包括利益	184	5,591

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,326	20,400
減価償却費	3,997	4,061
事業整理損	464	—
のれん償却額	432	432
引当金の増減額 (△は減少)	△133	△1,169
受取利息及び受取配当金	△370	△381
支払利息	176	160
売上債権の増減額 (△は増加)	2,168	△2,850
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△3,041	△2,472
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,721	1,008
未払消費税等の増減額 (△は減少)	801	△1,316
その他	189	△628
小計	8,290	17,244
利息及び配当金の受取額	393	411
利息の支払額	△196	△162
法人税等の支払額	△2,406	△6,365
補助金の受取額	—	671
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,081	11,798
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△2,042	△10,757
定期預金の払戻による収入	3,507	2,119
有価証券の売却及び償還による収入	4,457	—
有形及び無形固定資産の取得による支出	△8,821	△6,827
補助金の受取額	—	3,349
その他	△203	49
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,102	△12,066
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	806	△330
長期借入れによる収入	10,098	—
社債の償還による支出	△5,000	—
コマーシャル・ペーパーの発行による収入	5,000	—
コマーシャル・ペーパーの償還による支出	△5,000	—
配当金の支払額	△3,947	△4,144
非支配株主への配当金の支払額	△388	△753
リース債務の返済による支出	△333	△348
その他	△32	△43
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,202	△5,620
現金及び現金同等物に係る換算差額	△471	1,802
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	3,709	△4,085
現金及び現金同等物の期首残高	44,541	62,860
現金及び現金同等物の四半期末残高	48,250	58,775

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、顧客に支払われる対価について、従来は販売費及び一般管理費として処理する方法によっておりましたが、売上高から控除する方法に変更しております。また、決算日後に顧客に支払われる対価として見込まれる金額を従来は「流動負債」の「未払費用」の一部および「引当金」の一部として表示しておりましたが、返金負債として「流動負債」の「その他」に含めて表示しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過措置に従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高、販売費及び一般管理費はそれぞれ13,929百万円減少しております。なお、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高は1,867百万円減少しており、当第2四半期連結会計期間末における流動負債の「その他」に含まれる返金負債の金額は5,690百万円であります。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過措置に従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過措置に従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、当第2四半期連結累計期間の連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝酒造	宝酒造イ ンターナ ショナル グループ	タカラバ イオグル ープ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	73,901	31,151	17,393	122,446	5,337	127,783	0	127,784
セグメント間の内部 売上高又は振替高	263	134	0	398	8,848	9,246	△9,246	—
計	74,164	31,286	17,393	122,844	14,186	137,030	△9,246	127,784
セグメント利益又は 損失(△)	1,626	△396	3,736	4,966	847	5,814	△31	5,782

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業及び物流事業等であります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高は、当社において計上した業務受託収入であります。

(2) セグメント利益又は損失は、セグメント間取引消去29百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益△60百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「タカラバイオグループ」セグメントにおいて、次世代シーケンスライブラリー作製装置関連事業の整理にともない、減損損失365百万円を計上しております。なお、当該減損損失は、関連する損失と合わせて特別損失の「事業整理損」として計上しております。

II 当第2四半期連結累計期間（自2021年4月1日 至2021年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝酒造	宝酒造イ ンターナ ショナル グループ	タカラバ イオグル ープ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	57,202	46,564	31,551	135,318	5,895	141,213	—	141,213
セグメント間の内部 売上高又は振替高	431	170	0	601	8,729	9,331	△9,331	—
計	57,633	46,734	31,551	135,919	14,624	150,544	△9,331	141,213
セグメント利益	2,270	4,304	14,105	20,680	1,029	21,709	△93	21,616

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業及び物流事業等であります。

2. セグメント利益の調整額△93百万円は、セグメント間取引消去2百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益△96百万円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更)に記載のとおり、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の宝酒造の売上高は13,915百万円減少し、宝酒造インターナショナルグループの売上高は13百万円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	宝酒造	宝酒造イ ンターナ ショナル グループ	タカラバ イオグル ープ	計		
酒類	57,202	6,155	—	63,358	2,029	65,387
海外日本食材卸	—	40,408	—	40,408	—	40,408
バイオ	—	—	31,551	31,551	—	31,551
その他	—	—	—	—	3,562	3,562
顧客との契約から生じる 収益	57,202	46,564	31,551	135,318	5,592	140,910
その他の収益	—	—	—	—	302	302
外部顧客への売上高	57,202	46,564	31,551	135,318	5,895	141,213

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ワインの輸入販売、不動産賃貸事業及び物流事業等であります。

(重要な後発事象)

(重要な契約の終了)

当社の連結子会社であるタカラバイオ株式会社（以下、「タカラバイオ」という。）は、2021年11月9日開催の取締役会において、大塚製薬株式会社との「HF10[※]開発及び販売に関する契約書」および「CD19CAR共同開発及び販売に関する契約書」の両契約（以下、「本契約」という。）を終了することを決議し、同社と合意の上、同日付で契約を終了いたしました。

(1) 契約終了の理由

① 「HF10[※]開発及び販売に関する契約書」

膵臓癌を対象とした第I相臨床試験結果をふまえ、膵臓癌および他の癌種での開発計画を大塚製薬株式会社とタカラバイオで検討いたしました。今後の開発に要する期間等を考慮し、契約を終了するとの判断に至りました。

② 「CD19CAR共同開発及び販売に関する契約書」

成人急性リンパ芽球性白血病を対象とした第I/II相臨床試験を実施いたしました。治験期間の長期化や競合品の承認の状況等をふまえ、契約を終了することとなりました。

(2) 契約の相手方の名称

大塚製薬株式会社

(3) 契約終了の時期

2021年11月9日

(4) 契約の内容

① 「HF10[※]開発及び販売に関する契約書」

- ・タカラバイオと大塚製薬株式会社は、腫瘍溶解性ウイルスHF10[※]を用いた遺伝子治療剤（以下、「本製剤」という。）の開発を国内において協力して実施する。
- ・タカラバイオは、同社に対し、すべての適応症を対象として本製剤の国内における独占販売権を付与し、契約一時金のほか開発進捗状況により一時金を受領する。
- ・上市後は売上高の目標達成に応じた一時金を受領する。
- ・タカラバイオは、臨床試験用および市販用の製剤を製造し、同社に有償供給する。

② 「CD19CAR共同開発及び販売に関する契約書」

- ・タカラバイオと大塚製薬株式会社は、CD19・CARを用いた遺伝子治療剤（以下、「本製剤」という。）の開発を国内において協力して実施する。
- ・タカラバイオは、同社に対し、すべての適応症を対象として本製剤の国内における独占販売権とアジア地域9か国の優先交渉権を付与し、契約一時金のほか開発進捗状況により一時金を受領する。
- ・タカラバイオは、臨床試験用および市販用の製剤を製造し、同社に有償供給する。

(5) 契約の終了が営業活動等へおよぼす重要な影響

本契約終了にともないタカラバイオが大塚製薬株式会社に許諾した腫瘍溶解性ウイルスHF10[※]およびCD19・CAR遺伝子治療薬に関する、技術・知財・その他の権利は、タカラバイオに返還されます。また、今後、本契約に基づくマイルストーン達成時の一時金の受領、本製剤販売の売上は発生いたしません。なお、これによる当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

※契約時の名称、一般名canerpatrev（略称 C-REV）